

2003年9月の情報です。

## I 大気汚染常時監視測定結果

神奈川県では、大気汚染の状況を科学的かつ的確に把握するため、大気汚染防止法の政令市である横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市及び相模原市と協力して、大気汚染物質である二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、二酸化硫黄及び一酸化炭素等の常時監視を行っている。

このたび、県内91地点の測定局（一般環境大気測定局60局・自動車排出ガス測定局31局）における平成14年度の測定結果がまとまったので、その概要を報告する。

### 1 測定結果の概要

#### (1) 一般環境大気測定局（60局：市街地、住宅地等の生活環境における大気を測定）

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	60局中 56局 (93.3%)	0.026ppm	環境基準適合率は、前年度(89.5%)と比べて上昇している。年平均値は平成13年度(0.028ppm)と比べてやや低下している。
浮遊粒子状物質 (SPM)	60局中 34局 <sup>(注)</sup> (56.7%)	0.031mg/m <sup>3</sup>	環境基準適合率は、前年度(57.9%)と比べて低下している。年平均値は前年度(0.034mg/m <sup>3</sup> )と比べて低下している。
光化学オキシダント (Ox)	57局中 0局	0.038ppm	環境基準は、全測定局で不適合であった。光化学スモッグ注意報の発令日数は11日(前年度は13日)であった。
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	59局中 59局 <sup>(注)</sup>	0.005ppm	昭和55年度から全測定局で環境基準に適合している。年平均値は前年度(0.006ppm)と横ばいの状態である。
一酸化炭素 (CO)	5局中 5局	0.6ppm	昭和48年度から全測定局で環境基準に適合し、年平均値も低い濃度で推移している。

注) 長期的評価(P4浮遊粒子状物質の評価方法の欄とP7二酸化硫黄の環境基準の欄を参照)

#### (2) 自動車排出ガス測定局（31局：自動車の影響を受ける主要道路沿道の大気を測定）

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	31局中 19局 (61.3%)	0.037ppm	環境基準適合率は、前年度(46.7%)と比べて大幅に上昇しており、過去最も高い適合率である。年平均値は平成13年度(0.039ppm)と比べてやや低下している。
浮遊粒子状物質 (SPM)	30局中7局 <sup>(注)</sup> (23.3%)	0.039mg/m <sup>3</sup>	環境基準適合率は、前年度(26.7%)と比べて低下している。年平均値は前年度(0.045mg/m <sup>3</sup> )と比べて低下している。
		0.9ppm	

一酸化炭素 (CO)	27局中 27局	昭和57年度から全測定局で環境基準に適合し、年平均値も低い濃度で推移している。
---------------	-------------	---

注) 長期的評価(P4浮遊粒子状物質の評価方法の欄を参照)